# ペットと防災に関する現状の考察に

NPO法人アンビシャス所属

4回生 山本匠

1回生 梅田歩佳



## 目次

- ・認定NPO法人アンビシャスに関して
- 活動紹介
- 現在のペット飼育の現状
- 実際の災害の実例 < 東日本大震災 >
- 「同行避難」と「同伴避難」の区別について
- ペットと避難するための準備と心得



認定NPO法人アンビシャスに 関して

• (ペットと防災) (いのちの授業) (セラピードッグ活動 < ADTA 資格保持犬が活動) を行っています

ADTA:アンビシャスドッグセラピー活動認定資格 <現在およそ30匹の犬が資格を持っています>

• 今回の活動例

:京都総合防災訓練における防災ブース出展(京都市)

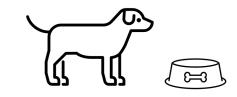
:地域センターにおける防災セミナーの実施(宇治市)

:ペット防災訓練(大阪など複数箇所)





# 活動內容:



# ドッグセラピー活動、いのちの授業

- 実際に介護施設を訪問し、ふれあい交流をおこなっています(年間100回以上、合同講習会、勉強会も実施し、 犬さん共々レベルアップしています)
- いのちの授業では主に教育施設や公民館を訪れ、実際に 五感を使ったレクリエーションを交えた授業を おこなっています

実施例:八幡第三幼稚園での授業(右上写真)

老人ホーム・ホスピス・障害者施設などへの訪問



# 活動紹介

(例:京都市防災訓練)

#### 内容

:①災害時において役に立つグッズ、 常備水の紹介

> Ex:)洗濯ネット(猫さん用) クレート(ケンネル) 折りたたみ式トイレ キャリーケース一式

- ②実際にセラピードッグと触れあう体験
- ③ペット同行避難の啓発

みやこめっせ前、ビル火災を想定した消火訓練 (2022年10月29日)



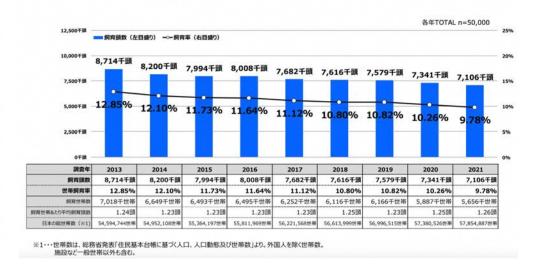
# 現在のペット飼育の現状

- ペット全体の飼育数は、日本の子ども(15才以下)の 総数よりも多いです
- →一方で飼育数は年々減少しています (飼育放棄も少なくないのが現状です)
- →マイクロチップの装着の推進

ペット(犬猫) = 1810万頭 15才未満の子供 = 約1507万人

日本ペットフード協会2020年調査、総務省 人口統計2020年より





朝日新聞2019年6月30日記事

【2023年最新版】ペットの飼育與数公開!大は減少で強は増加傾向・コロナワイルスやマイクロチッノとペット市場規模,2024年の見通しも解説 | equall Lif

「京都の観光名所に野犬多数 住民「群れて怖い」殺処分も」より

近所の甲性ける日上句 飼い犬の勘集由に

## 実際の災害の実例<東日本大震災>

- {環境省 東日本大震災における被災動物対応記録集より}
- <u>01.pdf (env.go.jp)</u>



放浪状態になった犬

東日本大震災に巻き込まれたペットたちの状況をあらためて学ぶ - 動物を知り、動物を愛す (hatenablog.com)

#### 表 10

| 159 区市町村(自治体 C)対象       | 有              | 無/他 |
|-------------------------|----------------|-----|
| 避難所でのペットの受け入れについての方針の有無 | 41<br>(うち不可 5) | 118 |

#### 表 8

| 15 都県市(自治体 A+B) 対象       | 有 | 無/他 |
|--------------------------|---|-----|
| 同行避難についての方針の有無           | 7 | 8   |
| 同行避難に関する市町村担当部署との取り決めの有無 | 0 | 15  |



# 「同行避難」と「同伴避難」の区別について

そもそも避難所におけるペット受け入れの問題点・・・

- ・ふん尿の悪臭
- ・無駄吠えの騒音
- ・アレルギー

など

# 「同行避難」と「同伴避難」の区別について



#### 同行避難

飼い主がペットを連れて一緒に避難すること。

避難所でペットと一緒に過ごせるかどうかは各自治体や避難所の 判断による。



#### 同伴避難

ペットと一緒に避難し、避難所で一緒に過ごすこと。

混同しやすく、トラブルの原因になりやすい





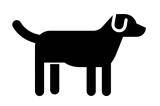
「ペット共生型避難所」の運営には、



普段からペット保有者と非保有者で



<u>コミュニケーションを取っておくことが重要</u>



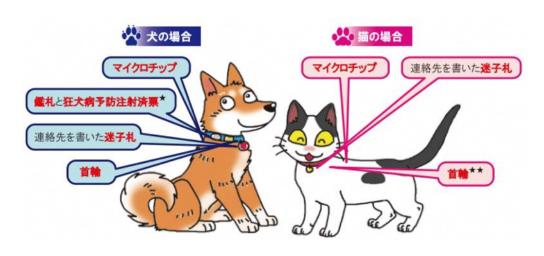
# ペットと避難するための準備と心得

#### 日頃からのこころがけで沢山出来ることがあります!

例;)マイペットカルテの作成、対人への馴れ、トイレの練習、逃げ場の把握、避難バッグの準備、予防注射など







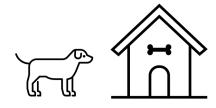
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/131901/2021091600182.html

https://jammin.co.jp/charity\_list/201109-ambitious/

# 主な準備品例:避難バッグ(キャリー)



- 洗濯ネット(猫さん用)
- 食べ物(いつも食べている もの、一週間分が目安)
- 首輪(名前の特定) など



# 最後に・・

- ペットと防災の活動は自分自身だけでなく、地域 の住民の方々への啓発、そして日常生活における ふれあい、しつけが大事です
- 今一度、ペットとの暮らし方を見つめ直してみて はいかがですか?



## 活動を通じての感想

• 四回生 山本匠 (2022年9月~)

:ペット飼育経験がなく、社会人になって飼う 予定だったので、災害対策との二つで学びのあ る機会になりました

:里親で飼うときと、子犬の段階から飼うときで、しつけなど日常のお世話が大きく異なり、これが災害時にも重要になることも新たな発見でした

:大震災を教訓に、将来の激甚災害にもペット と共生できるような対策を社会人になっても推 進していきたいです



## 活動を通じての感想

• 一回生 梅田歩佳(2022年11月~)

:東日本大震災以降、ペットと一緒に避難しやすい地域が増えたことを知り、安心しました。私の地域には、災害時に動物の救護活動を行うボランティアがあったり、各家庭のペットの情報や災害の備えが記載されている「犬と猫の防災手帳」というものがあったりします。動物病院を介すなどをして、こういった情報が飼い主に広く知らせていくべきだと考えます。

: 震災を含む大災害をいくつも経験している日本だからこそ、 起こった後のことを想定し、ジブンゴト化して考える必要が あります。活動前は、もし今災害が起こったらうちのワンコ はどうなるのかと不安が大きかったのですが、今やるべきこ とがわかり、その不安はかなり小さくなったと思います。

